

歩いて地域を学び自然を満喫 親子ふれあいハイキング

汗ばむほどの暑い日に、家族連れなど百名余が参加し、地区内環境の施設の実態や古墳の学習を深め合い、楽しい一日を過ごしました。

親子ふれあいハイキングが五月十九日に、親子一緒に、竜丘の環境施設と自然や文化に親しめるように、文化・体育両委員会の企画で行なわれました。今回は、「歩いて地域の自然や環境施設を知ろう」をテーマとして、地区内の施設・工場めぐりや白井川秘境、古墳見学を行ないました。

講師は竜丘古墳を考える会会長・下平隆司さん、飯田市環境アドバイザー・松澤肇さんらの説明を聞きながら学習しました。竜丘公民館を出発し、桐林クリーンセンターへ、ガス化溶解による処理の過程や、ゴミ分別の重要性を、クイズにして説明を受けました。その後の見学では、ゴミを大きなクレインでつかんで粉砕機へ運ぶ作業を目の当りにし、子供たちも大喜びでした。

環境産業公園へ移動し、アドバイザーの松澤さんによる環境問題の説明を受けて、リサイクル工場を見学し、古紙をリサイクルした断熱材が体にやさしく、優れた



塚原二子塚古墳から下りる一行

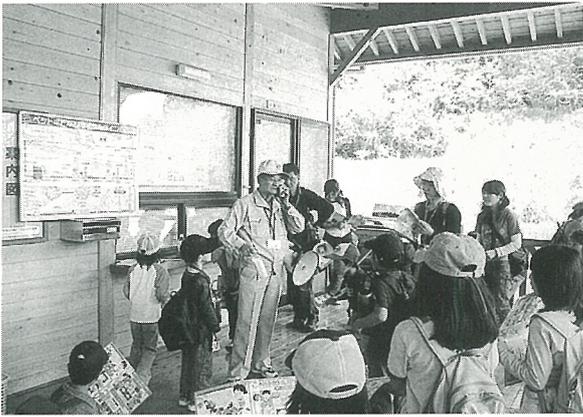
午後、白井川秘境を上流から下流へと探訪、間伐材で作った丸太橋を渡り、座頭の手や黄金の滝などの秘境の自然にふれることができました。馬背塚古墳では、石室の中に入り、古墳を考える会の下平さんの説明を聞きました。石室の大きさ、コウモリに驚きながら、竜丘地区には多くの古墳があり、古くから開けていた地域だったことを学びました。

二子塚古墳では、東山道について考え、当時の先人達に思いをめぐらせた。充実したハイキングに大人も子どもも満足して公民館へと到着しました。竜丘の歴史や自然に親子で触れることができた貴重な一日となりました。

五月二十一日に、竜丘地域づくり委員会の福祉健康委員会による「地域づくり研修会」が二十余名の住民の方々に参加して、盛会に行われました。当日の講師は、駒ヶ根市社会福祉振興係長の片桐美登さんで、「ご近所の支え合いと地域の力」と題しての学習会でした。

災害時に被災者を助け出したのは、千五のレスキュー隊であって、七十五は近隣住民の方であったと調査結果が出ているとのことで、実際に作成してみますと、一人暮らしの高齢者がどういう状態で居られるか、地域のたまり場や世話役をどういう形でなされているかも

新しい地域自治組織ができていくためには、今回の学習会は大変有意義なものであると参加者の多くは認識しました。



足正当初は熊谷委員様、吉川廣様を中心となり、早起き野球で大人ばかりが楽しんでいては、昭和五十二年、子供たちに野球を指導できる組織と環境をつくること、深い感謝申し上げます。

第一回竜丘地域協議会が五月十四日、竜丘公民館で行われました。各種団体の代表者、学識経験者、公募委員で構成する二十名の委員全員の出席のもと行われました。協議会では本会の運営要綱(案)の承認、正副会長の選出、パワーアップ地域交付金(市からの交付金)の交付先を竜丘地域づくり委員会とすることなどについて審議し、いずれも決定いたしました。

「続々々丘の語部たち」の刊行を前に、昭和五十六年「丘の語部たち」古老が語る竜丘」が刊行されてより十六年。ついに四冊目の語部を世に送り出すことが出来ました。このような文書形式の書物は、各地区公民館などにも出されていますが、これ程続いているのでしょうか。

また戦争末期、国策として疎開を余儀なくされた小学生(国民学校)の、貴重な体験記を載せることが出来ました。過去の記憶が薄れ行く現代、子どもたちに語り継ぐ資料となることを望んでいます。

今回の語部には、竜丘村が飯田市に合併して五十年の年表が掲載されています。半世紀の「村の歴史」が一望できましよう。

「続々々丘の語部たち」の刊行を前に、昭和五十六年「丘の語部たち」古老が語る竜丘」が刊行されてより十六年。ついに四冊目の語部を世に送り出すことが出来ました。このような文書形式の書物は、各地区公民館などにも出されていますが、これ程続いているのでしょうか。

また戦争末期、国策として疎開を余儀なくされた小学生(国民学校)の、貴重な体験記を載せることが出来ました。過去の記憶が薄れ行く現代、子どもたちに語り継ぐ資料となることを望んでいます。

創立三十周年を記念して

竜丘少年野球教室 下平 明男

飯田下伊那八チームが参加した本大会では、春先からの練習の成果を十分に発揮し、前週行なわれた喬木大会に続き優勝する活躍で、その後行われました記念式典・祝賀会に華を添えることが出来ました。

健全な育成を目的として、熱心に指導下さいました監督、コーチの皆様方のおかげで、今日まで約三百名の野球少年が育って行きました。今年、保護者の一人として、ご期待下さい。

この度、記念事業にご協力頂きました地域の皆様、又運営にご尽力賜りました父母、関係の方々にお礼申し上げますと共に、



竜丘少年野球教室 創立30周年記念野球大会

地域の意見を行政へ

第一回竜丘地域協議会が五月十四日、竜丘公民館で行われました。

各種団体の代表者、学識経験者、公募委員で構成する二十名の委員全員の出席のもと行われました。

協議会では本会の運営要綱(案)の承認、正副会長の選出、パワーアップ地域交付金(市からの交付金)の交付先を竜丘地域づくり委員会とすることなどについて審議し、いずれも決定いたしました。

また戦争末期、国策として疎開を余儀なくされた小学生(国民学校)の、貴重な体験記を載せることが出来ました。過去の記憶が薄れ行く現代、子どもたちに語り継ぐ資料となることを望んでいます。

今回の語部には、竜丘村が飯田市に合併して五十年の年表が掲載されています。半世紀の「村の歴史」が一望できましよう。

また戦争末期、国策として疎開を余儀なくされた小学生(国民学校)の、貴重な体験記を載せることが出来ました。過去の記憶が薄れ行く現代、子どもたちに語り継ぐ資料となることを望んでいます。

安心・安全な地域づくりを 目指しての研修会

多くの住民が参加して

五月二十一日に、竜丘地域づくり委員会の福祉健康委員会による「地域づくり研修会」が二十余名の住民の方々に参加して、盛会に行われました。当日の講師は、駒ヶ根市社会福祉振興係長の片桐美登さんで、「ご近所の支え合いと地域の力」と題しての学習会でした。

災害時に被災者を助け出したのは、千五のレスキュー隊であって、七十五は近隣住民の方であったと調査結果が出ているとのことで、実際に作成してみますと、一人暮らしの高齢者がどういう状態で居られるか、地域のたまり場や世話役をどういう形でなされているかも

新しい地域自治組織ができていくためには、今回の学習会は大変有意義なものであると参加者の多くは認識しました。

今回の語部には、竜丘村が飯田市に合併して五十年の年表が掲載されています。半世紀の「村の歴史」が一望できましよう。

また戦争末期、国策として疎開を余儀なくされた小学生(国民学校)の、貴重な体験記を載せることが出来ました。過去の記憶が薄れ行く現代、子どもたちに語り継ぐ資料となることを望んでいます。

「続々々丘の語部たち」 心ゆたかに今を生きて

ついに刊行される

昭和五十六年「丘の語部たち」古老が語る竜丘」が刊行されてより十六年。ついに四冊目の語部を世に送り出すことが出来ました。このような文書形式の書物は、各地区公民館などにも出されていますが、これ程続いているのでしょうか。

また戦争末期、国策として疎開を余儀なくされた小学生(国民学校)の、貴重な体験記を載せることが出来ました。過去の記憶が薄れ行く現代、子どもたちに語り継ぐ資料となることを望んでいます。

今回の語部には、竜丘村が飯田市に合併して五十年の年表が掲載されています。半世紀の「村の歴史」が一望できましよう。

また戦争末期、国策として疎開を余儀なくされた小学生(国民学校)の、貴重な体験記を載せることが出来ました。過去の記憶が薄れ行く現代、子どもたちに語り継ぐ資料となることを望んでいます。

人事

長尾 謙司

心温かい地域の皆様と一緒に仕事が出来ることが大変嬉しく思っております。少しでもお役に立てるよう精一杯頑張りますのでよろしくお願い致します。

転出

久保田 泰弘

竜丘での四年間、地域の皆様には大変お世話になりました。支所窓口や各事業への参加などを通じ、多くの方々とお会いし、貴重な経験をさせて頂き、ありがとうございました。

宮嶋 聰子

昨秋よりピンチヒッターとして、公民館にお世話になり、パント処理で何とかランナーを進ませることができたかと思っております。今後は地域にあって、公民館活動を楽しんで参ります。

